

足立学園中学校

算数

大問は 5～6 題で、設問は 20～25 問です。①は整数・小数・分数の四則計算と、□の値を逆算で求める問題が中心になっています。②は短文の文章題で、旅人算や仕事算、図形の角度や面積などです。③～⑤は応用問題で、速さや水量、面積・体積などの変化の様子をとらえる力や、数の性質や周期性に着目して、ある規則を発見する力などを求めています。図形では、比例の考えを利用して解く力、点や図形を回転・移動させたときの様子をとらえる力、立体図形の体積や切断面を考える力を見る問題を出題しています。

国語

①が漢字の書き取りと読み（特別奨学生入試は書き取りのみ）、②が文学的文章（小説や随筆）、③が説明的文章（評論）の 3 題で構成されています。文学的文章の読解では、登場人物の人間関係、主な出来事による登場人物の気持ちの変化が把握できているかどうかを見ます。説明的文章では、筆者の主張を読み取れるかがポイントです。また、②と③では語彙問題を出題するので注意しましょう。

理科

一般入試はこれまでどおり、大問 5 題で 4 分野からまんべんなく出題します。特別奨学生入試は大問 3 題で、①～③はそれぞれ 4 分野のなかの 1 分野から出します。②と③は総合問題を意識し、①と比べて配点が高めとなっています。いずれの入試も、①問題文の読み取りとそのなかの理科的現象の理解、②理科的用語の意味の理解、③グラフや表の読み取り、④実験に関する操作・装置・器具の理解、⑤観察した自然現象を頭の中でイメージし、それを文章や図で表現できる力、などを重視します。また、最近の理科のニュースなども押さえておきましょう。

社会

3 分野の広い範囲からまんべんなく、基礎的な問題を中心に 3 題出題するので、4 年生以降の教科書をしっかり復習しておきましょう。公民は時事問題をリード文とする場合が多くなっています。歴史は幅広い時代・分野から出します。教科書をよく読み、時代ごとにまとめておきましょう。また、地理を中心とする総合問題もあるので、都道府県ごとの形、代表的な産業、歴史上の人物、文化などに関することを整理して覚えましょう。

その他関連情報

特別奨学生入試（午後入試）の問題は、一般入試（午前入試）より多少難しくなります。ただし、出題傾向は上記の内容とほぼ同じです。

海城中学校

算数

十二分な計算力を問います。幅広いテーマの問題で思考力と処理能力を試します。

国語

まず、長文読解の力が必要となります。全文を通した文章の展開や心情の流れを把握することが大切です。出題は論理的な文章と感情的な文章の各1題が基本となります。記述式の問題も含まれるので、抜き出しができる力だけでなく、まとめて表現する力も養っておいてください。そのほか、ことばや国語の基本的知識も十分に学習しておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題するので、小学校で学ぶ知識をもとに、幅のある応用力を身につけてください。また、的確な論述力も必要となります。

社会

地理・歴史・公民の3分野を融合した論述問題が中心になっているので、地理や公民も、歴史との関係で学習しておくといでしょう。歴史は日本史が中心ですが、日本と世界との関係も重視しています。地理・公民は時事的な視点も入れています。各分野の基本的な知識は覚えておく必要がありますが、やたらに細かい丸暗記は必要ありません。それよりも、できるだけ興味を持って考え、資料を読み取って問題点を的確に表現できるような力を育てておいてください。

学習院中等科

算数

大問数は例年と同様 6 題で、計算問題と基本的な文章問題、応用問題という構成で出題する予定です。ほとんどの文章題には部分点があります（答えのみを書いても、ほとんど点数になりません）。

国語

説明的文章と文学的文章の 2 系統から出題することが多くなっています。漢字の学習をしっかりやっておくとよいでしょう。記述式の問題の対策も大切です。

理科

環境分野も含め、全分野から出題します。実験・観察・観測の結果の解釈も重視します。最近、話題になった科学・技術分野の出来事からも出します。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野からほぼ均等に出題して基礎的な知識を問います。多角的な出題とするのは社会的現象をとらえる力を見るためです。

京華中学校

算数

中学校の数学の授業を理解できる基礎力があるかどうかを見るために、四則演算と基礎的な小問を出題します。大問は難問ではなく、設問文を読んで理解し、状況を明確にとらえて数式に直して計算できるかを試すものです。

国語

3000 字程度の長さの文学的文章と説明的文章が 1 題ずつです。登場人物の心情把握、理由の説明については選択肢や記述形式で出題します。傍線部のことばの言い換えの抜き出し問題や、具体的な説明をさせる形式の問題もあります。また、小学 5・6 年生で習う漢字の読みと書きを独立して出します。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野からまんべんなく出題し、基本的な知識・計算力・理解力を問います。また、知っていれば解けるような問題だけでなく、文章や資料から情報を読み取り、科学的に分析し、考察する力を測る問題も出します。

社会

一つのテーマに沿った文章から、空欄補充問題や下線が引かれた語句について問う問題を出します。大問は地理・歴史・公民分野それぞれの単独のものもあれば、融合したものもあります。図や写真を提示し、時事問題なども出題します。また、近年は思考力を問う論述問題も出題します。地名や人名について漢字で書けるものは、すべて漢字で解答できるようにしておいてください。

攻玉社中学校

【第1回・第2回】

算数

大問4題の構成で、**1**は基本的な計算問題（分数や小数の四則演算、空欄補充、約束記号など）、**2**は小問集合（算数全般に関する問題）、**3**は文章題（時間と速さ、連続的に変化するものなど）、**4**は図形（相似に関する比、連比・面積の計算、立体の表面積・体積など）を出題する予定です。解答のみを採点し、途中式は部分点の対象としません。定規・コンパスは持ち込み可です。分数は「帯分数」「仮分数」とともに○にしていますが、約分忘れは減点します。比の形で答えるときは、「最も簡単な整数の比で」という指定をしています。また、小数点の桁の間違いは、減点ではなく×とします。「cm」や「分」など、答えに単位が必要な問題は、解答欄に単位を記載してあります。

国語

漢字の読み書きの問題（**一**・**二**）、国語常識の問題（**三**）、文章読解問題（**四**・**五**）、という大問5題構成です。漢字の書き取りは「とめ・はね・はらい」まできちんと書いてください。国語常識の問題は、慣用句やことわざなどの幅広い日本語の知識を出題します。文章読解問題は文学的文章と説明的文章からの出題で、記述力も含めてさまざまな観点から国語力を問うようにしています。記述問題は自分の意見を述べるものではなく本文の内容を理解しているかを見るものです。過去の問題を解き演習を繰り返すとともに、ふだんから辞書を使い語彙を増やしたり、字をていねいに書く癖をつけたりするように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から大問1題ずつ、計4題の出題です。第1回・第2回ともに、各分野の出題順は決まっていますが、なるべく取り組みやすい問題を第1問にしています。配点も均等に、各分野12点か13点で合計50点です。本校入学後の授業は、実験・観察を中心に展開していくこともあり、実験・観察を題材にした問題が多くなっています。また、自然に対して興味・関心があることを望んでいるので、特に生物・地学の分野では、教科書の内容を超えた知識や時事的な知識を問うことがあります。物理分野では、基本的な問題とともに、やや応用的な思考力や計算力を見る問題も出題します。化学分野では、実験に関する問題を中心に、化学の学習を進めるうえでの基礎となる、物質の性質に関する問題を繰り返し出題しています。生物分野では、基本的な知識とともに、身の回りの自然や、新聞などに載っている時事的な内容に関する問題を、地学分野では、例年主に基礎的な学力を問う出題となっていました。今年度からは他分野と同じく思考力・総合力を問う問題の比率を増やしていきます。4分野ともに、過去の問題をできるだけ多く解き、思考力・総合力を養っておくことが大切です。

社会

大問は三つあります。**1**は歴史分野を中心とした問題です。特定の時代にこだわらず、幅

広く勉強してください。②は地理分野を中心とした問題で、図や資料を読み取る問題などがあります。昨年度も出題しましたが、今年度も第1回・第2回とも、30～60字程度で書かせる問題を出題する予定です。③は公民分野を中心とした問題です。昨年度からは大問として出題しています。基本的な知識を問う内容ですが、政治分野・経済分野どちらも出題する予定です。

【特別選抜試験】

算数

答えのみを記入する「算数①」と、途中の解法も記述する「算数②」の、二つの試験を行います。「算数①」は、問題文が2～3行程度の小問題の形式です。計算、関数、数列、場合の数、図形、論理的思考など、算数に関するさまざまなジャンルから出題します。「算数②」は、長めの文章題や図形の応用問題が3題で、途中の考え方も記述する形式です。答えが間違っても途中の式や数値によって加点する場合があります。数式で書けない場合はことばで書いても構いません。また、中学以上の知識を利用して解答しても、考え方・内容が合っていれば正答としますが、問題としては小学生の知識で解ける内容になっています。これまでの出題分野は、整数問題、やや複雑な数列、中学数学に通じる単元、立体の計算（計算量が多いもの）などです。

佼成学園中学校

算数

計算力と比・割合の扱い、図形に関する思考力を見ます。計算問題を5問、小問題を約6問、文章題を3～4題出題します。比や割合、図形の問題のほかに、表やグラフを読み取る問題も出題しています。計算問題・小問題・文章題の最初のほうの問題をミスなく解くことが大切です。合格点に達していない受験生は、この部分ができていないことが少なくありません。基本レベルから標準レベルまでの問題を中心に繰り返し練習してください。解答用紙には途中の考え方を書くスペースがあり、部分点を与えることもあります。解き方をしっかり書いておくことも大切になります。

【特別奨学生入試 問題の傾向と対策】

形式・内容・出題分野などは第1回から第3回までと同じですが、より高い計算力や論理的思考力が必要となる問題を出題しています。問題集の応用編などを利用して、さらなる応用力の充実を図るとよいでしょう。

国語

読解力や表現力を中心に、小学校で学習した事項の理解度を見ます。内容は大きく分けて、①漢字の読み書き（10点程度）、②文法、基本的な語彙力を確認する問題（20点程度）、③登場人物や筆者の心情、人間関係の把握を見る文学的文章（小説・随筆）、④主題・指示語・接続関係・言い換えの把握、文脈の理解を見る論理的文章（評論文・説明文）の四つです（③④についての出題順は不同）。過去の記述問題では、主語と述語の対応が取れていない、抜き出し問題で文章の写し間違いや設問の条件に合わない解答があるなど、基本的なミスが見受けられました。また、文章が長い場合や難解な場合に、記述が中途半端であったり、記号問題を空欄のままにしまったりという答案もありました。時間配分を考えて解答するようにしましょう。

【特別奨学生入試 問題の傾向と対策】

論理的文章は、ほかの回に比べて抽象度が高くなっています（哲学に関する文章など）。文学的文章は、小学生男子である自分とは異なる境遇の人物（大人や女性など）の心情もとらえられるようにしましょう。主人公に感情移入しにくい場合も、表現から心情を想像するよう心がけてください。過去問・問題集などで、同じ傾向の問題を解いておくるとよいでしょう。また、語句については、文法・慣用句・ことわざ・敬語・熟語などの知識を問います。確実に点数が取れるようにしておいてください。文法については、例年、意味・用法の識別問題の正答率が低くなっています。過去問や問題集などでしっかりした実力をつけておけば、ほかの受験生に差をつけることができます。

理科

理科についての基本的な知識、科学的な思考能力が十分にあるかどうか、日常生活での理科学的な事象についての関心があるかどうかという観点で出題しています。大問の数は四つで、

それぞれ物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題し、配点はほぼ均等です。物理分野では、滑車、光、物体の運動、電気、磁石などに関する問題を、化学分野では、濃度、溶解度、ろ過、水溶液の性質などに関する問題を、生物分野では、教科書に登場する実験、観察に関する問題、実験結果から少しだけ考える問題を、地学分野では、太陽の動き、地震、岩石、天気などに関する問題をよく出題しています。定番の問題があるので過去問を見ておきましょう。また、近年は文章を読んで現象を説明する問題や実験の改善案を提示する問題など、思考力を問う問題も出題されていますので、日ごろから身近な科学現象や小学校で行う実験などに興味を持ち、原理をしっかりと理解しておいてください。なお、小学校の教科書に出てくる「二酸化炭素」など、基本的な用語の漢字間違いは不正解となるので、注意してください。

社会

基本的な知識・概念や、図表などの資料活用能力がどの程度身についているかを見ます。地理・歴史・政治経済の 3 分野から出題します。問題は大問 3 題で構成され、地理 20 点、歴史 20 点、政治経済 10 点という配点になっています。内容は、基本的知識を問う問題、日常生活での社会的な出来事を題材とした問題、地図・グラフ・資料などを見て考える問題になります。歴史上の人物や地名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう（基本的な用語の漢字ミスは 0 点になります）。基本的な地図記号や等高線の見方、日本の川や山脈などの位置、歴史的な事件が起こった年代などは正確に覚えておいてください。基本的な統計資料も確認しておきましょう。日ごろから社会的に注目されていること（時事問題）についても関心を持ち、考える力をつけておきましょう。

駒場東邦中学校

算数

設問は計算が正確にできるか、理解力があるか、発想力はどうかなどの基準を設けて作っています。また、作問に当たっては、みずから解答を作り上げていけるような、型にはまらない題材を選んでいきます。それだけに、問題集などを繰り返し勉強することも大切ですが、日ごろから一つの題材をいろいろな角度から分析する習慣を身につけてほしいものです。また、答えを出すに当たってどう考えたかを、ほかの人に伝えられるような表現力も身につけてください。

国語

長めの文章を読み、登場人物の置かれた状況や心情の推移を正確に読み取ったうえで、自分のことばで表現する力を測ります。限られた時間のなか、先入観にとらわれることなく、本文中に書かれていることを根拠として行間を想像する力や、出題の意図を正確に理解し、自分のことばで説明する力が求められます。漢字の書き取り問題は「とめ・はね・はらい」はもちろん、字の形にまで注意して、正確にていねいに書いてください。

理科

豊かな知性と科学的教養を身につけるための、確かな基礎知識と思考力を試す問題を出題します。単に暗記するだけでなく、学習した知識を、より深く、目新しい現象などに応用できるようにしておくといでしょう。学校で学習した内容を問う問題でも、実験や観察に基づいた科学的な考えを持っていないと、簡単には答えを導けないこともあります。ふだんから身の回りの自然現象について興味を持ち、予想に基づいて、確かめる実験をしたり、ていねいな観察をしたりして、科学的に考える習慣を身につけておきましょう。また、それをことばで説明する練習も大切です。

社会

さまざまな社会問題を学習していくために必要な基礎知識、思考力、そして表現力がどれだけ身についているかを問う問題を心がけています。問われる知識自体は、小学校の教科書に出てくる事柄、および小学生でも知っておくことが望ましい時事的事柄に限られます。そのうえで、知識として知っているかどうかにとどまらず、「なぜ?」「どうして?」をどれだけ考えられるか、考えたことを的確に表現できるかを問います。日ごろの学習では、ただ単に断片的な知識の量を増やすのではなく、「なぜ?」「どうして?」をじっくり考えながら、地理・歴史・公民という枠にとらわれない視点も持って、理解を深め、表現するよう心がけてください。

芝中学校

算数

中学入試の標準問題から応用問題まで、さまざまな分野から幅広く出題していますので、分量が多くなっています。そのため、速く、正確に正解を導き出す計算力が最も大切です。応用問題では、図形やグラフなどを用いて思考力を問う問題を出題しています。それらを解くには、問題文をしっかりと読み、鍵となる性質を見抜く力を必要としています。日ごろから、考えて解く練習を積んでください。

国語

漢字問題は、前後の文脈にふさわしい意味を考えたいうえで解答するようになっています。文字をていねいに書き、漢字が書けることだけでなく、ふだんから「似たような漢字」の「意味の違い」に注意して学習をする必要があります。読解問題は、設問がそもそも何を聞いているのかを正確に把握できるようにしてください。また、記述式の解答に際しては、「何が」「どうする」などの文の構造を意識しましょう。取りあえず書き始めてしまい、結果的に主語と述語の関係がおかしくなり、結局何を答えているのかわからなくなってしまうという解答が見られます。文字数に合わせて使う単語を取捨選択し、文末表現などに注意しながら、解答を作ることを心がけてください。

理科

「芝太郎君」の行動を追いながら、身近な現象・事象を問題とした第1問は、何気ないところにある「理科」を感じ、考えてもらうのが狙いです。理科全般から出題し、最近の話題のテーマを入れることもあります。第2問以降は生物・化学・地学・物理分野からの出題です。ここでは基礎知識を問うとともに、計算力や想像力を必要とする問題を出題します。通常受験生が知らないと思われることは、すべて問題文のなかで説明しているので心配はいりません。解き方を何となく覚えるのではなく、その背景にある意味を考える習慣をつけておいてほしいです。重要な基礎知識はしっかり持ちつつ、それと読み取った情報とを組み合わせて考える力をつけることを期待しています。

1回・2回ともに、問題を順番どおりに解いていって時間配分がうまくできなかった受験生が毎年見受けられます。全体を見渡し、できるものから解答する練習をしましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、偏りなく出題します。単純に用語を暗記するだけの学習ではなく、それらを知識として整理できているか、基礎知識をもとに推論する力があるか、ということを問います。高得点への鍵は、地理・歴史・公民の小問に対して、速く、正確に答え、論述にどれだけ時間を残せるかです。まずは、地理・歴史・公民の各分野についての知識を身につけ、整理しておくことが必要です。

論述については、たとえば「筆者がこのように考える理由は」と問われているのに、自分の意見を述べてしまっただけでは正答になりません。問題とリード文をよく読み、指示に従って解答することが必要です。

城北中学校

算数

例年、各回ともに小問集合が 2 題、大問が 3～4 題です。すべて答えのみを書く形で、なるべく取り組みやすい順に問題を配置しています。単位は不問で、解答用紙に記入してあります。小問集合は、計算問題、割合（食塩水など）、規則性、場合の数、図形などの分野からよく出題しています。後半の大問では、グラフを読む問題、文章題、場合の数、図形問題（平面・立体）などの思考力を問うものです。また、途中の考え方やどこまで求められたかを評価したいと考え、問いを細かく設定している大問もあります。採点に関しては、答えのみです。基本的に○か×かで判定します。ただ、約分のミス（既約分数でないもの）に関しては減点しています。帯分数や仮分数はどちらでも構いません。

国語

2017 年度から小説の読解問題と漢字問題の大問 2 題構成とし、現在に至ります。配点の比率は 9 : 1 です。読解問題では、長文記述に加えて短文記述も出題しています。記述の配点は高めに設定しており、部分点の幅も広く取っています。主語のない答案、文末の不備、句点のない答案、誤字・脱字（漢字の間違いを含む）、話しことばで書かれている答案は減点します。指定字数から超過・不足している答案は 0 点です。漢字問題では、字の巧拙は問いませんが、正しくていねいに書くという意識を持ってほしいです。

理科

配点は物理と化学が各 20 点、生物と地学が各 15 点です。実験・観察に基づく問題、計算力が問われる問題（主に物理・化学）、グラフ作成、作図、記述問題、お絵かき（スケッチ）問題（第 3 回のみ）などをよく出題します。漢字指定の問題のみ、漢字での解答を求めます。指定がなければ、ひらがな・カタカナでも構いません。

社会

配点は地理と歴史が各 25 点、公民が 20 点です。漢字指定の問題で、ひらがなやカタカナで書いた場合は×となります。指定字数や氏名（姓名）にも留意してください。地理では、地図・グラフ・表の読解問題は、ほぼ毎年出題されています。歴史では、すべての時代から出題するので、各時代の特徴や文化史まで押さえておくことをお勧めします。文物の写真問題も出すことがあります。公民と地理の対策としては、秋に発売される「〇〇年の重大ニュース」のような書籍を読み込んでおきましょう。

巣鴨中学校

算数

50分・100点満点です。2019年度から出題形式が一部変わりました。大問数は5題から4題になり、「小問集合」が設けられました。大問の配列は難度順ではありません。①は答えのみを書く「小問集合」です。②～④は文章題・平面図形・空間図形などで、それぞれ2～3問の小問がありますが、これは難度順になっています。「式」と「答え」を書く欄があり、「式」も採点対象で部分点もあります。「答え」だけしか書かれていない場合は、正解でも減点する場合があります。方程式を利用しても構いませんが、何をXとしたかを明記してください。全設問数（小問数）は15問程度です。

算数選抜

60分・100点満点で、算数1科目の成績だけで合否を判定します。大問数は5題で、①は計算問題です。②～⑤はⅠ～Ⅲ期の①～④とほぼ同じ出題形式です。「解き方・考え方」を文章で答える問題（小問）が1問あるので注意してください。2019年度以降の問題を参考にしてください。

国語

50分・100点満点です。㊦は漢字10問（1問1点）で、小学校の学習漢字から出題します。㊧と㊨は論説・説明文と随筆文で、それぞれ2000～3000字ほどです。二つを合わせても、6000字を超えることはありません。小説や詩・短歌などは出題していません。筋道を追って文章を読めるか、論理的に考えられるかなどを問います。ことばに関する問題もあり、随筆では心情を問う問題もあります。記述問題は、総字数で100～200字程度です。中間点・部分点もあります。

理科

30分・50点満点です。物理・化学・生物・地学の4分野から1題ずつ出題し、配点はそれぞれ12～14点です。記号・数字は読みやすく、はっきりと書いてください。漢字指定の問題もあります。計算問題では四捨五入の位にも注意してください。生物・地学については、小学校レベルの知識をしっかりと覚える必要があります。物理・化学は計算があり、論理的思考力を試す問題になっています。30分で40問前後を解くことになるので、知識問題の処理や計算を正確に、速くできるようにしてください。

社会

30分・50点満点です。配点は、地理20点、歴史20点、公民10点となっています。3分野にまたがる総合問題は出しません。2017年度までは1問2点×25問という構成でしたが、2018年度から3～5問増やしました。記号はていねいに書き、漢字指定の設問は必ず漢字で答えてください。設問の文章量や地図・グラフなどを増やし、短めの論述も出題します。

その他関連情報

各科目とも、Ⅰ～Ⅲ期の形式・レベルはほぼ同じです。合否は4科目の合計点で判定します。合格の目安となる正答率は60～70%で、科目ごとの基準点はありません。

成城中学校

算数

冒頭に計算問題が 2 題あります。文章題は幅広い分野から出題します。問題数は 10 題前後で、解答数は 20～25 程度です。解答用紙には解答のみを記入する方式なので（途中式は見ません）、計算間違いのないよう十分な注意が必要です。

国語

大問を 3 題出題します。1 題は漢字の読み書きや、言語知識を問う問題（配点 20 点）で、2 題は長文読解です。長文読解の設問ではいいいな読み取りが必要です。記述問題を複数題出題するので、その対策が必要となります。分野としては文学的文章（小説など）と論理的文章（評論など）です。

理科

大問を 3 題出題します。それぞれの配点は、ほぼ 20 点です。基本的な知識を確認しておきましょう。また、実験データの表やグラフから規則性を見いだすことも大切です。計算問題は答えのみが採点の対象となりますので、ミスのないよう十分に注意しましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から均等に出題します。人々の暮らしを成り立たせているさまざまな背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。例年、地形図に関する問題や時事問題を出題しています。また、文章による記述問題もあります。

世田谷学園中学校

算数

大問 6 題で構成しています。大問 $\boxed{1}$ は、四則計算やいわゆる 1 行問題と呼ばれるもので、ミスをせず、しっかり得点してほしい基本的な問題です。大問 $\boxed{2}$ ～ $\boxed{4}$ は解答のみのオーソドックスな客観問題なので、取りこぼしのないよう解答してください。大問 $\boxed{5}$ ・ $\boxed{6}$ は記述問題で、考え方や途中式による部分点もあります。大問 $\boxed{1}$ ～ $\boxed{4}$ を解答してから、じっくりと考えて、ていねいに記述してください。中学入試定番の問題をきちんと解けるように、苦手な単元をなくしておくことが大切です。

国語

文芸的文章や説明的文章などを素材に、大問 1 題を出題します。長文問題となるので、素材文をじっくりと読むことが大切です。設問は、主題・心情・論理・変化・対比など、それぞれ文章の核となる部分を中心に、語句の意味、指示語の内容、文脈の把握や思考力を問う問題などをバランスよく出題します。漢字は、素材文のなかから、5～10 問程度の出題を予定しています。

理科

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、物理・化学・生物・地学の 4 分野から合計 3 題を出題します。観察や実験を通しての出題が多いので、机上の知識だけではなく、ふだんから実験などに積極的に参加していく姿勢が大切です。思考力を要する計算問題もあるので、筋道を立てて計算する力を養っておきましょう。また、数値を問う問題では、特に指示がないかぎり、分数ではなく小数で答えるようにしてください。

社会

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。大問 $\boxed{1}$ は地理、大問 $\boxed{2}$ は歴史、大問 $\boxed{3}$ は地理・歴史・公民の総合問題で、20 字～50 字程度の記述問題も複数出題されます。地理・歴史・公民いずれの科目も、基本事項や用語をしっかりと押さえることが大切です。また、統計・史料・写真といった、資料を分析して解答する問題にも対応できるように、物事を多面的にとらえることを意識しながら学習しましょう。なお、漢字指定でない設問は、ひらがなで答えても構いません。

算数（算数特選）

大問 5 題で構成しています。大問 $\boxed{1}$ ・ $\boxed{2}$ は解答のみで、標準レベル以上の客観問題で構成されています。1 次から 3 次試験の大問 $\boxed{3}$ ・ $\boxed{4}$ 程度のレベルに相当するので、確実に得点しましょう。大問 $\boxed{3}$ ～ $\boxed{5}$ は記述問題で、前半の客観問題をきちんと解答してから、じっくり考えて解いてください。1 次から 3 次試験の後半の記述問題と同程度か、それ以上の出題レベルとなります。算数特選の過去問だけでなく、1 次から 3 次試験の過去問を解くことも対策につながります。まずは苦手な分野をなくし定番の問題をきちんと解けるように、後半の応用問題の類題で何度も演習をしましょう。

高輪中学校

算数

「A・B・C 日程」は大問が 5 題、小問が 17～18 問前後で、基本的には答えのみを記入します。①は基本的な計算問題、②は標準的な文章題で、途中式を書かせる記述形式の問題も 1 問出題します。③は速さ、規則性、割合と比、和と差など、④は平面図形、⑤は立体図形で、レベルはいずれも標準から応用までです。

2 月 2 日の「算数午後入試」は標準問題から応用問題までの大問 4 題で、①は規則性または割合と比など、②は速さ、③は平面図形、④は立体図形です。「A・B・C 日程」とは異なり、答えのみではなく、途中経過の記述・作図なども採点の対象となります。方程式の使用も認めています。

国語

大問は 3 題で、①は漢字の知識とことばの問題、②は随筆や説明文などの論理的文章、③は小説です。②と③は読解問題が中心で、筆者の考え方や、登場人物の心情をつかむことが大切となります。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題を出題します。基本的な事柄を問う問題から応用力を試す問題まで幅広く出します。各分野とも配点は均等で、それぞれ 15 点前後です。選択肢から答える問題もありますが、計算・説明・作図などをするものもあり、定規が必要な場合もあります。

社会

大問は 3 題、配点は各 20 点前後となっています。①は地理的総合問題、②は歴史的総合問題、③は公民的・時事的総合問題です。日常生活のなかで社会の動きに関心を持つことが大切です。多くの問題に字数や漢字などの指定があります。人名・地名、事柄、事件の名前などは、漢字で正しく書けるようにしてください。

東京都市大学付属中学校

算数

〈出題方針〉第1回から第4回まで①は小問集合、②～⑤は大問です。①の小問集合は、計算・割合・特殊算・図形など幅広い分野から基礎的な一行問題を出題します。②～⑤の大問は、文章題（数量）2題、図形2題の予定です。配点はすべて1問につき5～6点です。出題傾向は例年どおりなので、過去問にしっかり取り組んでください。なお、問題の一部に記述解答を取り入れています。図に補助線を加えたり、考え方を書いたりする形式です。

〈受験生へのアドバイス〉難問・奇問は出題しません。標準的な問題を確実に解けるようにすることを心がけてください。数量分野では、線分図、面積図、速さに関する問題、場合の数の問題について、図形分野では、特に比を用いた面積・体積の問題について、よく学習しておきましょう。計算練習は、市販の問題集でよいので、速く、正確にできるように毎日欠かさず取り組みましょう。

〈採点基準〉帯分数と仮分数のどちらで答えても可ですが、約分していない分数や、最も小さな数字にしていない比は1点減点します。

国語

〈出題方針〉基礎的な力（読解力・知識）を問うことを中心として問題を作成しています。文章問題において特に意識していることは、多様な文章に対応できる力です。説明文および物語文では筋道立てて正確に読み取る力を測り、詩では比喩や省略などの表現を手がかりとした読解力を見ます。また、知識問題においては、ことわざ・慣用句や漢字の成り立ちなどの知識を問うようにしています。

〈受験生へのアドバイス〉苦手なジャンルをつくらないように、さまざまな文章を読むことを心がけてください。また、知識問題に関しては、やみくもに暗記をするのではなく、資料集を活用したり、辞書の例文を読んだりして、工夫して覚えるようにしてください。問いに対して的確に答えるために、設問をよく読むことも大切です。過去の入試問題を解き、出題パターンや問いの表現などに慣れておくことをお勧めします。

〈採点基準〉漢字の書き取りはもちろん、記述問題でも漢字・ひらがなを問わず、字の体裁がおかしいもの、画数が正しくないものなどは減点対象としています。記述問題については、原則として、指定した字数の8割は書くようにしてください。5割未満の場合は採点対象外となります。また、字数、誤字、キーワードの欠落などによって、減点とすることがあるので注意しましょう。

理科

〈出題方針〉物理・化学・生物・地学の4分野からバランスよく出題します。作問に当たっては、「理科全般の基礎的な知識を持っていること」「実験データやグラフが読み取れること」「問題文から必要事項が読み取れること」「数値計算ができること」の4点を重視しています。

〈受験生へのアドバイス〉4分野について偏りのない学習を行い、基本事項を確実に押さえ、現象の説明ができるようにしてください。また、用語は正確に覚えておくことが必要です。練習問題や過去の入試問題を、時間配分に気をつけて解いてください。問題の前文（説明文）や会話文がヒントになることもあるので、注意深く読みましょう。

〈採点基準〉説明問題では部分点を与える場合があります。記述問題では、漢字指定の場合を除き、ひらがなで書いても減点はしません。

社会

〈出題方針〉地理・歴史・公民の3分野からバランスよく出題します。地理においては、雨温図・統計グラフなどを正確に読み取れるかどうか、歴史では、時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているかどうか、公民では、憲法や国内政治のしくみを理解しているかどうか、環境問題や国際関係などを含めた時事問題に興味・関心があるかどうか、といったことを見ます。なお、3分野に共通して、人名・地名・事件名など、小学校で学習した社会科の基礎用語については正確に書くことが大切です。漢字指定の場合は、問題文中に指示してあります。

〈受験生へのアドバイス〉3分野にわたって偏りのない学習を行い、基礎用語を正確に理解しておいてください。また、日ごろから新聞やテレビの報道番組をチェックし、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。練習問題や過去の入試問題を解いて、理解を深めておくことも大切です。

〈採点基準〉指定の書き方でなければすべて不正解となります。特に漢字指定の問題は、誤字・ひらがな・カタカナはすべて不正解で、△はありません。

桐朋中学校

算数

中学入学後の基礎となる計算力や図形についての知識を問う問題から、算数の総合的な力を見るための応用問題まで、特定の分野に偏らないように出題しています。問題はほぼ難度順に並び、例年、記述問題を出題しています。記述はどのように考えて答えを導いたかを確認するものです。式だけでなく、図や表などを利用してよく、途中の考え方が採点者に伝わるように書き表すことが大切です。自分の頭で考え、しっかり手を動かして問題の構造を理解したり、規則性を見つけたりすることになる出題を心がけています。

国語

受験生に読ませたい文章から出題することを第一に考えています。これから中学生になろうとする児童に読んでもらい、物事について深く考えるきっかけや、新たな視点を得る機会としてほしいからです。設問については、本文の内容を自分のことばでわかりやすく伝える力を見られるように作成を心がけています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から偏りなく出題します。分野ごとにテーマを持たせ、基礎的な知識・理解を問う問題から発展的な問題まで、バランスよくなるように配慮し、平均点は6～7割になるようにしています。具体的には、日常生活につながる題材を使い、身近な生活のなかにある理科を意識した問題作りをしています。また、こつこつと勉強してきた受験生が点数を取れるように、奇をてらった問題は出題しません。

社会

歴史・地理・公民の分野ごとにテーマを考え、「知的関心」を持ってもらえるような出題をします。基本的な事柄を問い、受験生が達成感を得られるように、平均点7割を想定した問題作りをしています。また、歴史資料や地図帳を使っての学習、統計表・グラフを読んでわかったことを表現する力、時事問題への関心なども見られるような出題を心がけています。

獨協中学校

算数

基礎的な計算力、文章問題を正しくとらえる力、図形を見て考える力などを試します。問題集を利用して学習するときには、途中式を書いたり、図を描いたりしながら、さまざまな解き方を自分で考えるように心がけてください。実際の入試問題には、途中の計算を解答用紙に書くものがあります。そこに書いてある解答を導くための式や考え方を評価し、部分点を与えることがあります。ですから、必要のない式や間違った解き方を消すことも忘れないでください。

国語

漢字の書き取りは、画数や文字のバランスを意識しながらいねいに書いてください。乱雑に書かれたものは正解になりません。長文問題では、文章の内容を正しく理解できているかどうかを重視します。小説では、さまざまな情景や登場人物の心情を正確につかむこと、説明文の場合は、文章全体の筋道を読み取ることが大切なので、情景や心情を思い浮かべながら読んだり、論理的に読んだりする訓練を、日ごろからしておきましょう。設問に答えるときは、傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体から考える習慣を身につけておくことが大切です。また、記述問題の場合は、必要に応じて文末に「こと。」「から。」を付けることを忘れないでください。文末表現が不適切な解答は減点の対象です。

理科

小学生の皆さんが日常の生活のなかで経験したり、関心を持ったりするような題材を取り上げて、そのなかに含まれる科学的なものの考え方や知識を問う問題を中心に出题しています。一見、見慣れない問題のように思えても、問題文に導かれながら考えを進めていくと、答えが出てくるようになっていく問題が多いので、問題文をよく読み、じっくりと考えてください。細かな知識よりも、結論を導く過程（正しい作業や考え方）を重視しています。基礎的な計算力（理科では小数で答えを求めます）も問いますので、ふだんから練習しておくといでしょう。

社会

教科書や参考書の内容を中心に、基本的な事柄の理解、資料を読み取る力、社会に対する関心などを確認します。地理・歴史・公民（時事を含む）の3分野からバランスよく出題します。基本的な地名・人名・用語は、漢字指定で解答してもらうことが多いです。その場合は、「ひらがな」はもちろん、乱雑な字も正解にはなりません。漢字で正確に書けるように練習しておいてください。基本的な事柄を説明したり、資料を読み取ったりするような思考力を問う説明問題も出題します。資料に即して読み取れたことや考えたことを文章にしていきましょう。

日本大学豊山中学校

算数

小学校で学習する内容から、計算・図形・整数・比・単位などの基本的な問題に加え、発想力・論理的思考力を問う応用問題も出題しています。

国語

ことばの知識問題、説明文、小説から構成されています。知識問題は、漢字の読み書きと部首、ことわざや四字熟語の意味など基礎的なものです。文章題では選択問題を中心に、記述問題も含めて接続語や指示語、空欄補充、内容合致や心情の説明など、基本的な問いを中心としています。

理科

「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野からバランスよく出題しています。実験・観察から思考させる問題や、理科に関する時事的な出来事を問う問題もあります。

※社会と合わせて 60 分・100 点（理科は 50 点満点）

社会

地理的分野では日本について、地域の気候や特色、環境問題や生活とのかかわりを学習しておいてください。資料や地図から読み取る力も試します。歴史的分野では重要な用語と人物を学習し、それらを「流れ」で理解しましょう。公民的分野は時事的な内容を中心に、政治や国際関係について学習しておくといでしょう。

※理科と合わせて 60 分・100 点（社会は 50 点満点）

本郷中学校

算数

例年どおり、大問は5～6題です。計算問題が2問、1行問題が4～7問で、あとは文章題などです。合計15問前後を出題します。文章題のなかには、グラフを読み取る力を見る問題や、図形（平面・空間）の問題が含まれており、なるべく取り組みやすい問題を先に配置するようにしています。中学校での数学の授業についていけるよう、速く正確に計算できるか、きちんと考えられるかを問いたいと考えています。

国語

論説文や説明文などの論理的文章と、物語文や随想文などの文学的文章からの大問を1題ずつと、漢字の大問の計3題を出題します。読解問題をはじめとして、語句の意味や空所補充など、さまざまな形式で出題する予定です。記述問題では、文末処理や誤字による減点があります。正確に書かれていない文字は、得点にならないこともあるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。4分野の配点はほぼ均等で、出題傾向は大きくは変わっていません。基本的な知識や計算力などの基礎力を身につけているか、その基礎力を応用できるかを問う問題です。表やグラフを読み取る力や、実験に対する考察力を問う問題、科学的現象に対する読解力を問う問題もあります。身近な生活のなかにある科学に興味を持って勉強に取り組んでください。最近話題となった自然科学に関するニュースなどもチェックしておくとい良いでしょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。配点はそれぞれ25点ずつです。地理分野では、「地図・統計・グラフなどの資料」が読み取れるか、それぞれの地域の特色を理解しているかを問います。特に、地形図の読図の問題は必ず出題します。歴史分野では、丸暗記ではなく、歴史の流れをしっかりと理解しているか、また、基本的な知識を正確に持っているかを問います。公民分野では、基本的な知識に加えて、新聞やニュースなどに興味を持って勉強に取り組んでいるかなどを問います。憲法を読み、関連する基本的な知識を整理しておいてください。漢字の指定もあります。正確に書かれていない文字は得点にならない場合がありますので、ていねいな字で書くように心がけてください。

明治大学附属中野中学校

算数

50分・100点満点です。計算から文章題、平面・立体図形まで、小学校で学習する全範囲から出題します。例年の問題構成としては、最初に計算・小問が8～10問程度あり、その後、文章題、グラフの読み取り、平面・空間図形などの問題が8～10問程度続きます。本校では難問・奇問といわれるような内容は出題しないので、確実に正解を導けそうな問題から取り組み、速く正確に計算する練習を着実に行ってください。

国語

50分・100点満点で、昨年度から大きな変更点はありません。問題構成としては、例年、長文読解が6割で、小問が4割です。記述式問題も多く、誤字・脱字がある場合や、答え方が不正確な場合（理由を問われているのに「～こと。」と答えているなど）は、減点の対象になります。また例年、指示語、接続詞、主語、ことばの係り受けの問題などを出題しています。小問については、小学校の学習漢字の範囲内から、漢字の読み書きを20点前後出題します。字はていねいに書くことを心がけてください。そのほか、四字熟語、慣用句、ことわざ、語の意味、ことばのきまり（文法）などからも出題します。

理科

30分・50点満点で、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「計算による数値解答」が多く、10～20字の記述式問題を出題する場合があります。主な内容は、「知識を問うもの」「法則を使って論理的に思考する力を問うもの」「実験・観察に関するもの」「分野を超えた総合的なもの」などです。小学校の理科の教科書をしっかり読んでから問題演習を行ってください。学習量に比例して必ず力がつくはずです。

社会

30分・50点満点で、地理・歴史・公民の3分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「短い文章で解答する」などがあり、1問当たりの配点は1～3点です。地理については、日本地理が中心ですが、基礎レベルの世界地理を出題することもあります。グラフを読み取る問題もよく出題しています。地名については、地図帳で位置を確認する習慣をつけておいてください。歴史は、事柄を単独で覚えるのではなく、原因から結果までの全体の流れを理解するようにしましょう。年表を活用した学習が効果的です。文章で解答する問題は、歴史で出題することが多くなっています。公民については、日本の政治が中心で、世界については基礎レベル程度です。学習内容はそれほど多くないので、漏れのないようにしましょう。また、過去1年間の時事に関連する問題も想定されます。また、用語・地名・人名を漢字で正しく解答できるようにしておきましょう。

明法中学校

算数

試験時間は第1回午前が50分で、第1回午後と第2回午前・午後はともに40分です。配点はすべて100点です。大問は5題あり、計算問題、基礎知識を見る小問と、思考力を見る問題を出題します。過去問を中心に学習し、特に例年出題される分野は、どんな形式で出題されても大丈夫なように、問題集などでしっかり解法を身につけておくことが大切です。また、計算はていねいに行い、ケアレスミスによる失点をしないよう注意してください。

国語

試験時間は第1回午前が50分で、第1回午後と第2回午前・午後はともに40分です。配点はすべて100点です。大問が2題で、1題は論理的な文章、もう1題は文学的な文章が題材となります。基礎的な問題としては、漢字の書き取りと読み、語句の意味や適切な接続語の選択などを出題します。この分野では確実に得点できるようにしましょう。応用的な問題としては、内容把握（選択式・記述式）を出します。作文は第1回午前にあります。配点は15点程度で、字数は150字程度なので、8割以上は書いてください。日ごろから自分の考えや気持ちを相手に伝えられるよう心がけて文章を書く練習をしましょう。

理科

入試科目に理科のある第1回午前・第2回午前とも、試験時間は30分で、60点満点です。物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。内容は理科についての基礎的な知識問題、実験や観察から考えていく問題、身の回りの理科学的な事柄についての関心を見る問題です。基礎的なものが多いので、まずは基本問題を繰り返し学習して、知識を確かなものにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。地理分野では必ず地形図に関する問題を出題します。都道府県の名前は漢字で書けるようにして、なおかつ位置も答えられるようにしましょう。公民分野では時事問題もあります。試験時間は第1回午前・第2回午前とも30分で、60点満点です。配点は各分野とも均等です。過去問を研究して傾向をつかみ、よく出題される基礎的な知識を固めておきましょう。

適性検査型入試

第1回午前に行います。都立立川国際中等教育学校をはじめ、公立中高一貫校の受検生向けの問題を作成し、適性Ⅰ型・Ⅱ型を実施します（Ⅲ型は実施しません）。

立教池袋中学校

算数

基本的な問題から応用問題まで幅広く出題しています。限られた時間のなかで確実に解くために、ふだんから正確で素早い計算力を身につける練習をしておいてください。設定が複雑な問題もありますので、状況や内容を正しく読み取るのはもちろん、多くの条件を整理し、筋道を立てて考える力を養っておく必要があります。公式や一般的な解法をただ覚えるのではなく、日ごろからどんなに簡単な事柄にも疑問を持つことが大切です。より良い方法を考え、いろいろな視点で物事をとらえる姿勢を忘れずに、楽しみながら学習をしてきてください。

算数（帰国児童入試）

基本的な問題から応用問題まで幅広く出題しています。一般入試の過去問を解くことで、正確で素早い計算力を身につけることはもちろん、多くの条件を整理し筋道を立てて考える練習をしてください。

国語

問題は長文 2～3 題、韻文（詩歌など）やことばと漢字の知識の問題、漢字の書き取りで構成されています。文章はそれほど長くありませんが、しっかりと解答するためには、設問だけを見るのではなく、文章全体をしっかりと読み、内容をとらえることが大切になります。ある程度のスピードで文章を読む力を養い、問われていることは何かを考えられるようになるとういでしょう。

韻文やことばと漢字の知識の問題については、その問題を解くためのカギになるものが隠されている場合も多いので、上手にヒントを見つけて解答してほしいと思います。

国語（帰国児童入試）

問題は一般入試と同様の形式で、文章 2 題程度、韻文（詩歌など）やことばと漢字の知識の問題、漢字の書き取りで構成されています。設問だけを見るのではなく、内容をとらえてしっかりと解答するためには、一般入試の対策を見て過去問題を解くことが良い練習になると思います。

理科

理科の 4 分野（物理・化学・生物・地学）すべてにわたって、なるべく偏りがないように出題するようにしています。実験・観察の結果から推定できる事柄や、実験・観察の結果が意味するものは何かを問うような出題を考えています。そのためには、実際の実験・観察のイメージができるよう、実験・観察に親しんでおくことが重要です。実験・観察の結果の多くは、グラフによって表されます。グラフの作成の仕方を含めて、グラフの読み取りの練習も行なって理科の思考能力を高めてください。なお、計算問題もできるだけ入れるつもりです。理科の計算は単位を伴うことが多いので、計算の意味の理解を念頭に置き、計算能力を養ってください。

社会

本校の社会科は、生徒が主体的に社会をつくりあげる「市民」としての自覚を持つことを教育目標の一つとしています。したがって、基本的な知識を習得したうえで資料などの分析を通じて、社会的な事象について論理的に考える力、さまざまな視点から解釈する力、自分の意見を組み立てる力を身につけることを重視します。入試問題は地理・歴史・総合の3分野で構成されていますが、こうした力を精査するために、基本的な知識・語句を漢字で答えるほかに、資料や図表を読み解き説明すること、分野によっては自分の意見を述べることが求められます。